

三ノ輪町

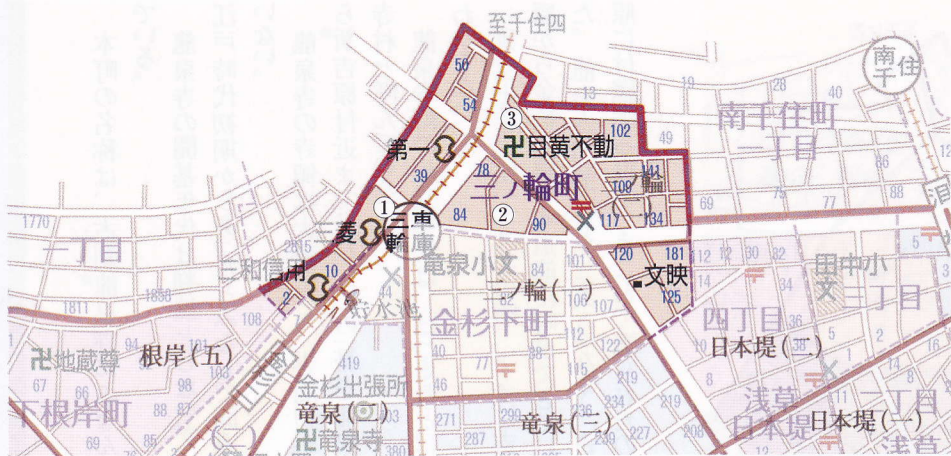
みのわまち



▶目黄不動の本堂



◀昭和50年当時の三ノ輪2-13付近
△中央図書館所蔵▽



三ノ輪は、江戸時代以前からあった古い地名で、その地名由来は良くわからない。

縄文期この地は、奥[※]東京湾に突出た台地の先端部に位置していたことから、地形に基づいて水と岬を関連つけて説明する説もある。

三ノ輪は、箕輪・三之輪なども書いたという。古い記録にも、箕輪守屋、三輪原宿、箕輪高屋などの文字も見られる。

この辺りは、奈良・平安の頃、京から常陸の国府へ通じる街道沿いであったと推定される。宿場ではなかったが、旅人を泊める農家があり、宿場の要素が形成され、守屋・原宿・高屋の名が付いたと考えられる。

本町の起立年代は不詳であるが、延亨二年（一七四五）に三ノ輪村から分かれ、三ノ輪町が起立したという。

明治になると、明治三年（一八七〇）に原宿町と改めた。

その後、近隣の寺院を合併。同二十四年に三ノ輪村と合併し、原宿町から再び三ノ輪町と称するようになった。そして、住居表示制度の実施をむかえ、その名が消えた。